チケット

ご予約は、電話、ウェブ、電子メールでお受けします。
料金はご来場時にお支払いください。
・おとなな劇場『怪談 牡丹灯籠』［料金］無料
・つくる高校生『DOLL』［料金］大人：500円／18歳以下：無料

電話／0857-84-3268
ウェブ／www.birdtheatre.org
電子メール／ticket@birdtheatre.org

感染症予防対策を講じた上で上演します。

- お客様が十分な距離を取れる定員でプログラムを開催します。
- 会場の定期的な換気、消毒を行います。
- ご入場前に検温を実施します。
- マスクの着用をお願いします。
- 「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」の利用をお願いします。

上演をもっと多くの方に楽しんでいただくために

送迎します
JR浜村駅と劇場との間を車で送迎いたします。（無料、要予約）

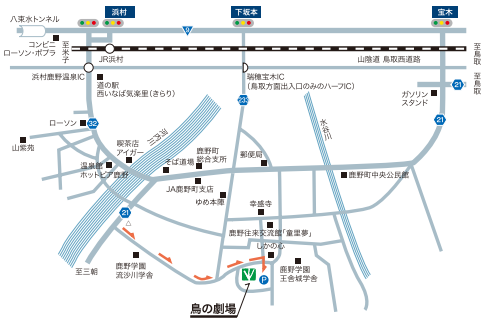
バリアフリーをめざします
障がいのある方にもご覧いただけるよう、適宜対応しております。ご連絡をください。

託児について
感染症対策の観点から、いつも託児をお願いしている団体が活動を休止されました。
現在、託児の体制を模索中です。（保育の経験がある方で、「託児できますよ」という方からのご連絡もお待ちしております。）

鳥の劇場へのアクセス　鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1　電話：0857-84-3268

■JRを使って
劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。
※公演日は浜村駅から送迎を行います。
□浜村駅まで・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分
□浜村駅から・車で15分

■車を使って
・山陰道 鳥取西道路、浜村鹿野温泉IC・瑞穂宝木ICから約10分
・鳥取市中心部から約30分
・倉吉市中心部から約40分
・米子市中心部から約1時間20分



主催：特定非営利活動法人鳥の劇場
後援：鳥取県　鳥取市　鳥取県教育委員会　鳥取市教育委員会　NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会　鳥取大学地域学部附属芸術文化センター　新日本海新聞社　株式会社ふるさと鹿野
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会　公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団

特定非営利活動法人鳥の劇場　ウェブサイト www.birdtheatre.org　電子メール info@birdtheatre.org　〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話・ファックス 0857-84-3268

鳥の劇場2020年度プログラム＜いっしょにやるプログラム＞＜試みるプログラム＞

鳥の劇場
BIRD Theatre Company TOTTORI

プロの演劇人と一般の方で創った作品を、みんなで楽しむ企画です。二本立てです。一つは、映画や歌舞伎にもなっている名作落語を65歳以上の“おとな”の方たちとリーディング形式で創った作品。もう一つは、これまでに高校演劇で数多く上演されてきた戯曲を、鳥取敬愛高校演劇部と創った作品です。

おとなな劇場

リーディング上演

怪談 牡丹灯籠

原作：三遊亭円朝　脚本・演出：齊藤頼陽
キャスト：足立雅子　大西明美　金田由子　中尾知子
松田洋子　丸瀬久美子　村上恵子　山本英子

［日時］3/27・28 開場12:30 開演13:00
［会場］鳥の劇場・スタジオ
［料金］無料

高校演劇 もっと盛り上げ事業 つくる高校生 発表公演

DOLL

作：如月小春　演出・出演：鳥取敬愛高等学校演劇部
監修：村上厚二　サポート：大川潤子　中垣直久

［日時］3/27・28 開場14:30 **開演15:00**
［会場］鳥の劇場・劇場
［料金］大人：500円／18歳以下：無料

2021年
3月27日（土）・28日（日）

［会場］鳥の劇場 スタジオ・劇場
（鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話0857-84-3268）

鳥の劇場2020年度活動テーマ：感じる、でもわからない。言葉、言葉。そこに言葉を与えたい。

おとなな劇場

リーディング上演 怪談

牡丹灯籠

3/27・28 13:00〜

おとなな劇場

鳥の劇場の俳優のナビゲートで、65歳以上の“おとな”の方々がお芝居を創っていくプロジェクト。
一年に一回のペースでリーディング上演を実施。
2018年の活動開始から、これまでに『瞼の母』(作:長谷川伸)、『女殺油地獄』(原作:近松門左衛門)を扱った。

『怪談 牡丹灯籠』について

明治期に活躍した三遊亭圓朝による落語の怪談噺。中国の怪奇小説、深川の米問屋に伝わる怪談、牛込の旗本家で聞いた実話などに着想を得て創作された。物語の前半部分にあたる、「新三郎が幽霊のお露と逢瀬を重ねる」怪談話が日本三大怪談として有名であり、映像作品や歌舞伎、演劇に広く脚色されている。

2018年度『瞼の母』上演の様子

おとなな劇場『怪談 牡丹灯籠』に向けて

早いもので、今回で三回目の試みになりました。観ていただく方はもちろん、やる方たちにも楽しみながら取り組んでもらいたいので、ほどほどに親しみやすいものを取り扱いたいと毎回頭を悩ませるのですが、今回は(全くの季節外れなのですが)「怪談噺」を思いあたり、そこから本作に至りました。
「カランコロンと駒下駄の音で幽霊が会いに来るやつだな。」という認識程度で読んでみたら、ただの怪談じゃあない。二つの筋が並行して進んでいるのですが、良く知られている怪談じゃない方の仇討ち話の方が面白く、また怖かったりもします。使い古された言葉ですが、「げに恐ろしきは人間なり」です。
話自体も良く出来ていて面白いのですが、落語ならではのキャラの濃い登場人物たちを、参加者の方たちがどう役作りしたのかも見どころです。
“おとな”ならではの味わいを楽しんでいただければと思います。

齊藤頼陽

2019年度韓国・安山市での上演と交流ワークショップの様子

高校演劇
もっと盛り上げ事業
つくる高校生 発表公演

DOLL

3/27・28 15:00〜

高校演劇もっと盛り上げ事業 つくる高校生

高校生がアーティストと舞台芸術作品をいっしょに創ったり、舞台芸術に必要な知識をいっしょに考えたりすることで、自分たちで考え創作していく力を向上させていくことを目標としているプロジェクト。演劇部だけでなく、演劇に興味を持つ高校生を広く対象としている。2017年から開始し、これまでに4人のアーティストと作品を創り上演。韓国・安山市の青少年劇団「コドゥンオ」との交流も継続的に実施しており、2018・19年8月には韓国での上演も行なった。

『DOLL』あらすじ

鎌倉の全寮制の女子高校に通うことになった恵子。親元を離れ一人入学式へ向かう途中、同じ高校に入学する麻里、京子、みどり、いずみの４人と出会う。５人は同じ寄宿舎の一室で共同生活を送ることになる。生まれ育った場所も環境も異なる５人は時にはぶつかり合い、時には助け合いながら日々を送っていく。そんなある時、恵子は隣の男子校の生徒会長上村からの告白を受けデートをすることになる。しかしその後恵子は上村にもう会いたくないと告げる。その翌日上村自殺の一報が５人の元へ届く。

2020年度 つくる高校生 はこんなことをしました。

作品創りの基礎力向上を目指し、二つの集中講座を開催しました。芝居作りの基礎は読解にあるとし、まずは台本の読み解き。それを受けて、その面白さを見る人にどのように届けるかを考えました。

◆「台本読解の講座」2020年8/4(火)・12(水)・13(木)　◆「舞台美術・照明・音響の講座」2020年12/12(土)・13(日)
◆『DOLL』制作に向けてのワークショップ・稽古
2020年11/7(土)・25(水)・12/16(水)、2021年1/9(土)・13(水)・14(木)・22(金)・23(土)・3月中

今年度「舞台美術・照明・音響の講座」

今年度『DOLL』制作に向けてのワークショップ

つくる高校生『DOLL』に向けて

今回『つくる高校生』で監修をやってます村上厚二です。
1月から鳥取敬愛高校演劇部のみんなと如月小春の『DOLL』上演に向け話し合ったり稽古したりうーんうーんと頭ひねったり、時には一緒に体を動かして遊んだり、なんだかんだワイワイ楽しくやっています。高校生のみんなと向き合っていると自分の高校時代ってどんなだったっけ?ケータイとかスマホはなかったよなー。インターネットもないし。生まれ育った場所も違うし(わたし岩手出身です)環境も全然違うけど、過去の自分と同じようなこと考えてたり悩んでたりするのかなー?どうなんだろう。
『DOLL』の物語では5人の女子高生が主役です。入学式に向かう道すがら出会った彼女たちは寄宿舎で共同生活を送り、授業を受け、時には海に行ったり。それぞれの悩みだったり生まれ育った環境、将来への漠然とした不安を抱えながらも、誰かが落ち込んでたら他の4人がフォローしてくれたり、たまに喧嘩したり。どこにでもいそうな女子高生です。それこそワイワイ楽しそうにお喋りしています。そんな彼女たちがお話の最後には「ねえ、死んじゃおうか?」で5人とも入水自殺してしまいます。えっ、なんで?このクエスチョンマークは相当大きいです。実際にあった事件をもとに如月さんが書いたこの物語を、現役高校生のみんなとかつてのおじさん高校生とでワイワイ楽しくうんうん悩みながら、どんな作品が出来上がるのか楽しみです。

村上厚二